

ローマ字表記の規則

I ローマ字表記について

規則	例
1. 表記は原則として、ヘボン式による。	
2. 撥音はすべて“n”で表記する。	Hanbaagaa
3. 長母音は母音を重ねて次のように表記する。 aa、ii、uu、ee、oo	おかあさん(okaasan) とけい(tokee)
4. 促音は直後の子音字を繰り返す。	ざっし(zasshi) カッブ(kappu)
5. 文頭、および固有名詞とその複合語などの語頭に大文字を用いる。にほんご、にほんじんなども語頭に大文字を用いる。	
6. 外国人の名前は、通常かたかな表記されるときに音に従って表記する。	ミラーさん(Miraa-san)
7. 外来語の一部は原音に近い表記にする。	フオーク(fooku) ファッション(fasshon)
8. 外来語に使われる「ティ」「ディ」は、コンピューターのローマ字入力方法を考慮して「thi」「dhi」を用いる。	パーティー(paathii)
9. 撥音の後に母音やヤ行音が来てナ行音と区別できなくなった場合は、間に「'」(アポストロフィ)を挿入する。	れんあい(ren' ai) きんようび(kin' yoobi)
10. 助詞の「は」「へ」「を」は、表音式仮名遣いを採用し、「wa」「e」「o」で表記する。	がっこうへ いく (gakkoo e iku)
11. Tシャツのようにアルファベットとかなを組み合わせる言葉はかな部分のみルビを付ける。	Tシャツ(T-shatsu) Eメール(E-meeru) Jポップ(J-poppu)
12. 「、」は「,」、「。」は「.」で表す。	じゃあ、また。 (jaa, mata.)
13. 「～」はローマ字表記内でも「～」で表す。	～まい (～mai)

II ハイフンつなぎについて

規則	例
1. 複合語はハイフンでつなぐ。	あさごはん(asa-gohan) おとこのこ(otoko-no-ko) でんしじしょ(denshi-jisho)
2. 固有名詞の複合語の場合もハイフンでつなぐ。その場合、後半部も語頭を大文字にする。	とうきょうタワー(Tookyoo-Tawaa) げんばくドーム(Genbaku-Doomu)
3. 接頭語の「お」「ご」を使った言葉は原則としてハイフンでつながない。	おしごと(oshigoto)、 おちゃ(ocha)、おふろ(ofuro)、 おすし(osushi)
4. 接尾語は原則としてハイフンでつながない。 ただし、次の II-5, II-6 は例外である。	にほんじん(nihonjin) にほんご(nihongo) そばや(sobaya) げつようび(getuyooobi) にしぐち(nishiguchi)
5. 「名称+さん」はハイフンでつなぐ。	たなかさん(Tanaka-san)
6. 助数詞、日時表現はハイフンでつなぐ。	3にん(san-nin)、5さい(go-sai)、 100えん(hyaku-en)、 8じはん(hachi-ji-han)、 7がつ(shichi-gatsu)
ただし、造語性が弱いもの、また1語として数えたいもの、助数詞の前に促音化するものには、ハイフンを用いない。	ひとつ(hitotsu)、ひとり(hitori)、 1さい(issai)
7. 助数詞、日時表現に疑問詞がつく場合は、ハイフンでつながない。ただし、語彙帳の場合、語構成をわかりやすく見せるため、ハイフンでつなぐ。	なんにん(nannin)、なんさい (nansai)、なんじ(nanji)
8. 数字にもローマ字ルビを振る。2桁以上の場合、位(くらい)ごとにハイフンでつなぐ。	32さい(sanjuu-ni-sai) 280えん(nihyaku-hachijuu-en)
9. する動詞は、名詞部分と「する」をハイフンでつなぐ。	べんきょうします (benkyoo-shimasu)

その他ルビの振り方 具体例

	ローマ字ルビ	コメント
ラーメンやさん	raamen'ya-san	規則 I-9、II-4、II-5 を適用
ゴールデンウィーク	Gooruden-Uiiku	

Ⅲ ローマ字の分かち書きについて

規則	例
1. ローマ字ルビは単語単位で分かち書きを行う。 助詞、助動詞の前後も分かち書きを行う。	たべますか(tabemasu ka) がっこうに(gakkoo ni) がくせいです(gakusee desu) どこにも(doko ni mo)

その他ルビの振り方 具体例

	ローマ字ルビ	コメント
せんせいじゃないです	senseejanai desu	desu の前にのみスペースを入れる。
おおきくないです	ookikunai desu	desu の前にのみスペースを入れる。
いきませんでした	ikimasendeshita	動詞の活用は分割しない
そうですか	soo desu ka	
どうやって	doo yatte	
かいて ください	kaite kudasai	
みに いきます	mi ni ikimasu	
~について	ni tsuite	
いくか どうか	iku ka doo ka	
みながら	mi nagara	
もっと やすいの	motto yasui no	例外的な振り方

IV 「アニメ・マンガのにほんご」ローマ字表記との比較

*水色の網掛けは差異がある部分

「アニメ・マンガのにほんご」ローマ字表記	「まるごと」ローマ字表記
助詞「は」は「wa」、「へ」は「e」、「を」は「o」で表示する。 例：がっこうへいく→gakkou e iku	同じ
子音「m、b、p」の前の撥音は「m」で表示する。 例：せんぱい→sempai	すべて「n」で表記
撥音の後に子音「n」がくる場合撥音の後に「・」を入れる。 例：こんにちは→kon・nichiwa	「'」(アポストロフィ)を入れる
撥音の次に母音がある場合、撥音の後に「・」を入れる。 例：れんあい→ren・ai	「'」(アポストロフィ)を入れる・
促音は後に続く拍の子音を重ねて表示する。 例：やったー→yattaa	同じ
語末の促音は表示しない。 例：ごめんねっ！→gomen・ne!	同じ
長音は基本的にひらがな表記に従う。お段の長音も「u」で表示する。 例：よかろう→yokarou	母音を重ねる。お段の調音は「oo」で表示する。
カタカナの長音「ー」は母音を重ねる。 例：コーヒー→koohii	同じ
ひらがな表記で長音記号「ー」「～」を使っているものは母音を重ねる。例：ばーさん→baasan わかんない～→wakan・naii	同じ
一番初めの文字は文でも小文字であるが、固有名詞の一文字目は大文字とする。 例：はるちゃん→Haru chan	同じ
「～さん」の「～」の部分は「-」で表す。 例：～くん→- kun	「～」の部分はローマ字ルビでも「～」で表している。
「、」は「,」、「。」は「.」で表す。 例：よーし、行くぞー。→yooshi, ikuzoo.	同じ
「アニメ・マンガのにほんご」ローマ字分かち書き	「まるごと」ローマ字分かち書き
助詞の前後はスペースをあける。 例：わたしは ケーキが すきです。 →watashi wa keeki ga sukidesu.	同じ
終助詞の前はスペースをあけない。 例：いきましようか。→ikimashouka.	スペースをあける
「する動詞」は「する」の前にスペースをあける。 例：ゲットする→getto suru	名詞部分と「する」の間にハイフンを入れる。

「人名+さん」はスペースをあける。 例:Yoshiko san	「名称+さん」はハイフンでつなぐ。
「～さん」の「～」の部分は「-」で、「-」の前後に半角スペースを入れる。	該当箇所なし

V ローマ字ルビを振る範囲

<かつどう>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 各課扉の目標文 ・ 各課1ページ目(扉ページの次)の最初にあるトピックタイトル ・ 章タイトル ・ 指示文 ・ 提示文、提示語彙(その課で学ぶ表現、語彙) ・ 社会文化の指示文、提示語彙
--

<りかい>

共通	<ul style="list-style-type: none"> * ローマ字ルビを振るもの <ul style="list-style-type: none"> ・各課扉の基本文 ・各課1ページ目(扉ページの次)の最初にあるトピックタイトル * ローマ字ルビを振らないもの <ul style="list-style-type: none"> ・「べんきょうするまえに」 ・指示文 ・「さくぶん」
トピック1	<ul style="list-style-type: none"> ・指示文を除いたすべてにローマ字をふる。 <p>ただしディクテーション問題はローマ字ルビなし</p>
トピック2～5	<ul style="list-style-type: none"> ・「もじとことば」 <p>基本的にローマ字を振るがディクテーション問題はローマ字ルビなし。 漢字の導入時には、よみがなとふりがなの間に空白をあけてローマ字ルビをつける。</p> <p>例 食べます 大きい ta bemasu oo kii</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かいわとぶんぼう」のモデル会話文(*1)、提示文型、提示語彙 ・「どっかい」の読解本文(*1)、選択肢、解答表に使われる語彙
トピック6～9	<ul style="list-style-type: none"> ・「もじとことば」 <p>基本的にローマ字を振らないが、漢字の導入部分にはローマ字ルビをつける。(送り仮名の部分には不要)</p> <p>例 食べます ta</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かいわとぶんぼう」のモデル会話文(*1) ・「どっかい」の読解本文(*1)

(*1) モデル会話文、読解本文については、日本語文各行の下ではなく、ローマ字で全文をまとめて書く。

読解本文(日本語)

ローマ字文